

その他

教員養成課程の学生に対する小学校歌唱共通教材の 弾き歌い指導の一考察 —旋律の指づかいを中心に—

長谷川 梨紗
(教育学科非常勤講師)

音楽科授業で必要とされる弾き歌いの技能について、指づかいが原因となるつまずきに着目した。小学校歌唱共通教材の簡易伴奏譜を用いて旋律の指づかいを分析し、ピアノ初心者の学生が、限られた授業時間の中で効率的に弾き歌い技能を習得し、実際の教育現場で活用できるための指導について考察した。また、より豊かな音楽表現のためには、音楽の授業に必要な基礎的な音楽理論の知識を切り離して考えずに、曲の中でも関連させながら弾き歌いに取り組むことの必要性についても言及した。

キーワード：小学校歌唱共通教材，弾き歌い，指づかい，簡易伴奏譜，ピアノ初心者

1. はじめに

現行の小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）には、小学校教育における音楽科教材として、歌唱共通教材が各学年に 4 曲ずつ、計 24 曲が示され、第 1 学年～第 4 学年では 4 曲すべて、第 5 学年及び第 6 学年では 4 曲中 3 曲を取り扱うこととされている。

しかし、大学入学前後にピアノを始めた学生にとって、小学校歌唱共通教材に必要なピアノ伴奏及び弾き歌いの技能を身につけることは、決して簡単なことではない。弾き歌いは、鍵盤楽器を演奏しながら歌唱をすることであり、楽譜を読む、歌唱、鍵盤を弾くという複数の動作を同時進行しなくてはならない技能である。だが、伴奏に真剣になり歌唱まで意識が回らない、鍵盤や指の動きを見ることに集中してしまい楽譜や周りを見る余裕がない、という状況がしばしば見られ、弾き歌いに対して不安や苦手意識を持っている学生も少なからず存在する。ピアノや他の鍵盤楽器の経験があったとしても、両手でピアノを弾きながら歌を歌う弾き歌いの技能は、難易度が高いと感じる学生も多い。さらに教育現場では、演奏するだけでなく、児童・生徒の反応を観察しながら音楽表現を教授し、

習熟度を評価する必要がある。自身の演奏のみに集中するのではなく、児童・生徒の様子を観察しながら指導を行うことが求められる。歌唱共通教材のピアノ伴奏及び弾き歌いにおける技能向上のため、ピアノ初心者の学生にとって困難な技術は何であるのか、課題を明確にしたいと考えた。

教員養成課程のピアノ初心者の学生が苦勞をしている原因の一つに、指づかいの問題がある。歌唱共通教材は学生が知っている曲も多いが、それゆえに指づかいを意識せず、イメージから音だけを追うように曲を弾いてしまい、弾くたびに異なる指づかいとなる。そして、指が足りなくなり曲の流れが止まってしまうなど、指づかいが原因となるつまずきは、多く見られる。ピアノ初心者の学生が、限られた授業時間の中で、効率的に弾き歌い技能を習得するため、困難な要因の一つである歌唱旋律の指づかいに着目し、どのような指導や提案をすべきなのかを考察する。

2. 先行研究

学校教育の現場での音楽科授業において、特に歌唱活動では、児童・生徒の状況に応じた柔

軟な指導が求められるため、CDなどの音源を使用するよりも、教員の弾き歌いによる指導が最も有効な手段であると言えるであろう。平井（2016）は、児童・生徒の反応や習熟度に合わせて速度の調整、演奏範囲の限定など臨機応変な指導が可能であることに触れ、音楽科授業における弾き歌いによる指導の重要性について述べている。

また、指づかいについての提案がされている研究として、村木（2013）は、小学校教科書の教師用指導書の運指と一般的な運指論から導かれる独自の運指案を提案し、実際に学生に演奏をさせて、5の指についての困難が最も多く見られたことを報告している。井上ら（2013）は、ピアニストと初心者の運指法の違いを身体能力の違いと音楽的感覚の違いから明らかにし、歌唱共通教材の中から抜粋した曲の指づかいを提案している。また森（2018）は、小学校歌唱共通教材の標準伴奏譜には、ほとんど指づかいが書かれていないことを挙げ、指づかいの記載のない楽譜を見て演奏すると、不自然で弾きにくい指づかいになるため演奏が不安定になることを指摘し、ピアノに不慣れな場合を想定した指づかいを提案している。

歌唱共通教材の弾き歌い技能を習得し、教育現場で活用するための提案は様々にされているが、教師用指導書や標準伴奏譜を用いた指づかいの提案が多く見られた。

3. 目的と方法

小学校歌唱共通教材の歌唱指導のための伴奏譜は、簡易伴奏譜や標準伴奏譜などが存在する。教育現場における歌唱指導のためのピアノ伴奏法には、高崎（2020）や丹羽（2021）は、楽曲そのもののイメージや曲想・作曲者の伝えたいメッセージを忠実に演奏し、芸術性を重んじる「原曲の伴奏」と、子どもたちがメロディを理解しやすいように用い、ピアノ初心者でも演奏しながら楽しむことができる「簡易伴奏」の2通りの伴奏法があると述べている。笹野ら（2018）は、児童を観察しながら伴奏するには、手元を見ることなく演奏できるよう考慮され、

旋律以外の音が少なく、指導内容を明確にできる簡易伴奏譜が有効であり、音楽を「表現」する学習段階では、テンポや強弱や豊かなハーモニー（和声）も加わり、より一層深い表現が盛り込まれた標準伴奏譜が適していると述べている。武藤ら（2019）は簡易伴奏譜について、学生が限られた授業時間の中で、できるだけ効率的に無理なく弾き歌いを習得し、より音楽的な点に注意を注ぐために有用であると述べ、即戦力となる人材を育成するにあたり、今後も簡易伴奏を積極的に導入していくべきとしている。

これらのことや、歌唱旋律と右手がほぼ一致していることなどを踏まえ、教育現場において曲の導入の段階で用いられるのは簡易伴奏譜が多いと考え、本稿では「改訂版 最新 初等科音楽教育法」（2020）の簡易伴奏譜を使用し、歌唱旋律を弾くために必要となる指づかいについて考察する。

また、2008年（平成20年）3月告示の第8次小学校学習指導要領に準拠して編集された「最新 初等科音楽教育法〔改訂版〕」（2011）と、2017年（平成29年）3月告示の第9次小学校学習指導要領に準拠して編集された「改訂版 最新 初等科音楽教育法」（2020）の簡易伴奏譜の旋律の指づかいを比較する。旋律を弾くために必要な指づかいの技術を探り、2011年から大幅に改訂された2020年の簡易伴奏譜には、旋律を弾くための指づかいにどのような改訂があったのか、変更された点を明確にする。その上で、ピアノ初心者や経験の浅い学生にとって、困難に感じる原因がどこにあり、どのような指導をしていくべきなのかを考察し、今後の弾き歌い指導への一助とすることを目的としている。

4. 歌唱共通教材の旋律の指づかいについて

小学校歌唱共通教材は、第1学年～第6学年まで4曲ずつ、全24曲挙げられている。17曲の文部省唱歌に加えて、わらべうたや童謡など世代を超えて広く歌われてきた曲が取り上げられている。24曲のうち、ハ長調9曲、ト長調3曲、ヘ長調5曲、ニ長調1曲となっており、日本の音階を使用した曲が各学年に1曲ずつ含ま

教員養成課程の学生に対する小学校歌唱共通教材の弾き歌い指導の一考察

れている。

表1は、歌唱共通教材24曲の前奏・後奏を含む旋律の指づかいを「指越え」「指くぐり」「指替え」「指広げ」「指よせ」の五つの技術に分類し、曲中に用いられている回数をまとめたものである。楽譜は「改訂版 最新 初等科音楽教育法」(2020)の簡易伴奏譜を使用した。

表1 歌唱共通教材に必要な指づかいの技術

	曲名	指越え	指くぐり	指替え	指広げ	指よせ
第一学年	うみ	1			2	1
	かたつむり			2	1	
	日のまる				1	
	ひらいたひらいた			3	6	
第二学年	かくれんぼ			1	3	3
	春がきた				12	
	虫のこえ			3	4	1
	夕やけこやけ		1	3	4	2
第三学年	うさぎ			1	2	1
	茶つみ			5	5	1
	春の小川			4	12	5
	ふじ山	3		2	2	
第四学年	さくらさくら	4			4	2
	とんび	1	3	4	9	3
	まきばの朝	1	1	7	7	3
	もみじ	2			10	
第五学年	こいのぼり		1	1	3	2
	子もり歌				3	
	スキーの歌	1	3	1	15	
	冬げしき		1		6	4
第六学年	越天楽今様			7	3	
	おぼろ月夜		1	4	2	4
	ふるさと			4	5	2
	われは海の子		1	2	8	4
	合計	13	12	54	129	38

指づかいの技術について、本稿では表2のように定義する。

表2 指づかいの定義

指越え	弾いている指の上をまたぐようにして次の音を弾くこと
指くぐり	弾いている指の下をくぐらせて次の音を弾くこと
指替え	同じ高さの音を連続して弾く時(同音連打)に指を替えて弾くこと
	一つの音を保持している時に鍵盤を押さえたまま、指をすり替えるようにして弾くこと
指広げ(拡張)	隣り合った指を隣以上の距離の鍵盤まで指を広げて弾くこと
指よせ(収縮)	次の音を弾く時に指の距離を狭くし、指を寄せてくるようにして弾くこと

指越えと指くぐりは、指を交差させて次の音を弾く必要があり、五つの技術の中でも難しい技術である。歌唱共通教材24曲中、低学年の教材ではほとんど見られないが、音域が広く曲の難易度も高くなる中学年以上の曲では、指越えと指くぐりの技術も必要となる。だが、指越えと指くぐりは、全体を通して用いられる回数が少なく抑えられている印象である。

指広げは、ピアノ初心者であっても対応することができるであろう。3度の跳躍進行の際に1と2の指を広げて弾くなど、24曲すべての曲に見られた技術である。指よせについても、指を縮める距離感をつかむことができれば、比較的対応しやすい。指替えは、同じ高さの音が続く時に指を替える、または一つの音を保持している時に鍵盤を押さえたまま指をすり替えるようにするという動作で、ピアノ初心者にとって難易度が高いが、フレーズを繋げて弾くためにも必要な技術である。

次に、「初等科音楽教育法」の2011年と2020年の旋律の指づかいは、どのような変化があったのかを見ていく。

表3 「初等科音楽教育法」簡易伴奏譜の指づかい 2011年と2020年における回数の比較

	2011					→	2020				
	指越え	指くぐり	指替え	指広げ	指よせ		指越え	指くぐり	指替え	指広げ	指よせ
うみ	2			1		→	1			2	1
かくれんぼ			2	3	3	→			1	3	3
茶つみ			7	5	1	→			5	5	1
春の小川	2		6	10	4	→			4	12	5
さくらさくら	2		1	2	2	→	4			4	2
もみじ	2	2		6	2	→	2			10	
こいのぼり		1	2	7	3	→		1	1	3	2
スキーの歌	2		2	18	1	→	1	3	1	15	
冬げしき		1		7	3	→		1		6	4
おぼろ月夜		3	2	6	4	→		1	4	2	4

「初等科音楽教育法」の2011年出版と2020年出版の簡易伴奏譜を比較した結果、指づかい表記に変更された点が見られたのは、《うみ》《かくれんぼ》《茶つみ》《春の小川》《さくらさくら》《もみじ》《こいのぼり》《スキーの歌》《冬げしき》《おぼろ月夜》の10曲であった。表3は、変更が見られた10曲の指づかいについて、2011年と2020年を比較したものである。

次に2011年と2020年の指づかいにおける変更点を見ていく。各譜例に示した数字は、譜例7と譜例8を除き、五線譜上側は2020年の楽譜による指づかい表記、五線譜下側は2011年の楽譜による指づかい表記を示している。

《うみ》では、前奏1小節目の1拍目Hを3の指で弾き始めるが、歌の始まる5小節目のHは、譜例1のように5の指から弾き始めることで、4小節目から5小節目にかけて1→5の指よせが必要となった。加えて5小節目の3拍目から6小節目の1拍目G→E（短3度）の跳躍音程で新たに3→2の指広げが必要となったが、1→2の指越えは不要となった。

譜例1 うみ

《かくれんぼ》では、8小節目から9小節目の1拍目にかけてA→G（長2度）で5→1の指よせが5→3へと変更された。それに伴い、譜例2のように9小節目を3の指で弾き始めることができ、10小節目Aの同音連打で指替えが不要となった。そして、11小節目のGも3の指から弾き始めることができ、1拍目G→E（短3度）で2→1の指広げが不要となり、E→G（短3度）で1→5の指よせが1→4に変更された。

譜例2 かくれんぼ

《茶つみ》では、譜例3のように3小節目の2拍目から3拍目のD→G(完全4度)の指広げが1→3から1→2に変更され、続く4小節目の同音連打Hの指替えが、5→4→3→3から4→3→3→3(12小節目は同じ音型で4→4→3→3)へと変更された。また、8小節目の4拍目から9小節目の1拍目A→H(長2度)の指よせが、2→5から2→4へ変更された。

譜例3 茶つみ



《春の小川》の前奏の旋律は、譜例4のように一点ハから二点ホまでと音域が広い。このため指づかいの工夫が必要となるが、前奏だけで2回あった指越えをなくし、指広げや指よせで対応できる指づかいへと変更されている。

譜例4 春の小川(前奏)



譜例5 春の小川(13小節目～)



また譜例5のように、13小節目の1拍目Dを1の指から弾き始めることにより、2拍目から3拍目のE→D(長2度)を2→1で弾くことができ、3→1の指よせが不要となる。続く3拍目から4拍目のD→G(完全4度)を1→3から1→2の指広げに変更することで、14小節目のA→Aをどちらも3の指で弾くことができ、指替えが不要となる。16小節目2拍目から3拍目のG→E(短3度)を2→1の指広げで対応することで、1拍目から2拍目のG→Gを2→3で弾く指替えが不要となる。また、19小節目1拍目から2拍目A→Aの指替えが3→5から3→4に変更され、続く3拍目から4拍目

のG→E(短3度)を3→2で弾く指広げが必要となった。

《さくらさくら》では、4小節目の右手旋律にE→H→A→Hという動きがあり、Eの音の保持中に1→5への指替えが必要であったが、Eを付点2分音符に、H→A→Hは左手に変更することで、E音の保持中の指替えが不要となった。8小節目の1拍目から2拍目A→H(長2度)の指よせが1→5から1→3に変更された。

《もみじ》は、2小節目の3拍目から3小節目の1拍目C→F(完全4度)が、譜例6のように1→3から1→2に変更され、3小節目の2拍目E→F(短2度)の指くぐりが不要となった。

譜例6 もみじ



《こいのぼり》では、譜例7のように2011年の楽譜で見られた右手前奏の和音が、2020年の楽譜では譜例8のように単旋律に変更されたが、2小節目2拍目のG→B(短3度)を1→4で弾く指よせが必要となった。4小節目の1拍目Fを付点2分音符に変更し、Cの音以降が省略されたことにより、F→CやA→Cの指広げが不要となった。譜例9のように、11小節目Fを1の指から弾き始めることにより、1拍目から2拍目にかけてのG→A(長2度)が3→1から2→1の指くぐりに変更された。13小節目の1拍目Aを5の指で弾き始めることで、Aの同音連打を5の指で弾くことができ、3→4→5の指替えが不要となった。

譜例7 こいのぼり(2011年の楽譜)



譜例8 こいのぼり(2020年の楽譜)



譜例9 こいのぼり（11小節目～）



《スキーの歌》では、譜例10のように、1小節目の1拍目Dを4の指で弾き始めることで、3拍目のH→D（短3度）で2→1の指くぐりが必要となり、続くD→G（完全4度）は2→3から1→3の指広げに変更された。4小節目のG→Gが3→4から3→3に変更され、指替えが不要となった。

譜例10 スキーの歌



また、譜例11のように6小節目終わりから7小節目にかけてのA→Aの同音連打を4→5の指替えで対応することで、7小節目から8小節目のE→D（長2度）を2→1で弾くことができ、1→2の指越えが不要となった。

譜例11 スキーの歌（5小節目～）



《冬げしき》は、譜例12のように2小節目の1拍目から2拍目のC→B（長2度）が5→4から5→3に変更されたことで、指よせが必要となった。3小節目の1拍目から2拍目G→A（長2度）が2→4から1→5の指よせに変更されたことで、続く3拍目のG→Eを4→2で弾くことができ、3→2の指広げが不要となった。10小節目の3拍目は指番号の記載がなかったが、A→B→Cを1→3→4とすると、C→D（長2度）での指よせが不要となる。

譜例12 冬げしき



《おぼろ月夜》では、譜例13のように1小節目から2小節目にかけてのG→Gを5→4の指替えに変更することで、1小節目の2拍目から3拍目D→E（長2度）で2→1の指くぐりが不要となった。5小節目の3拍目G→C（完全4度）で3→5の指広げに変更することで、その前のF→G（長2度）で2→1の指くぐりは不要となるが、5小節目から6小節目にかけてのC→Cで5→4の指替えが必要となった。6小節目から7小節目にかけてのG→A（長2度）で1→5の指よせ、7小節目の3拍目D→Dで1→2の指替えが必要となった。8小節目の3拍目Gをどちらも1の指で弾くことにより、G→Gで3→1の指替えが不要となった。

譜例13 おぼろ月夜



5. 分析結果とまとめ

歌唱共通教材の「初等科音楽教育法」簡易伴奏譜における指づかいは、2011年と2020年の楽譜で変更のない曲も見られたが、ピアノ伴奏及び弾き歌いに取り組みやすくなるように考慮の上、改訂が加えられたものと考えられる。そして、変更された上での課題も見えてきた。

(1) 「指越え」「指くぐり」「指替え」の減少
指づかひに変更があった曲の中で、注目すべきは、指越え・指くぐり・指替えの使用の減少である。とくに、指替えの減少が顕著である。それは、指越え・指くぐり・指替え・指広げ・指よせの五つの技術のうち、指替えが最も難易度が高い指づかひであるためと推察することができる。指替えは、同音連打や連続する同じ高さの音を異なる指に替えて弾く技術である。この技術に加えて、音を保持している間に鍵盤を押さえたまま指をすり替える技術もあるが、実際に指の力がまだ弱いピアノ初心者は、音を保

持したまま指を替える際、鍵盤を押さえたまま保つことができずに鍵盤が浮き上がってしまい再度音を鳴らしてしまう、同じ鍵盤の上で指を替えなければならないが、指の移動ができておらず、そのまま指を下ろしてしまい隣の音を弾いてしまうなど、同じ高さの音で指を替えて弾くことにつまずきが見られる。それに対して、指よせ・指広げは、比較的ピアノ初心者でも対応できる技術である。2020年の楽譜では、指替え・指くぐり・指越えに代えて、指よせ・指広げが多く使用されるようになった曲もあり、ピアノ初心者にとっての負担が軽減された側面もあった。指よせ・指広げが多く使用されているのは、《うみ》《春の小川》《さくらさくら》《もみじ》である。指替えや、次に難しい指越え・指くぐりで対応するより、なめらかに弾けるようにという音楽的な表現への配慮がなされ、指よせ・指広げが増えたのではないだろうか。難しい指づかいに気を取られ、音楽的な表現に意識が向きにくいという問題を少しでも解消するための変更であると考えられる。フレーズの途中で指替え・指越え・指くぐりの技術が必要となった時、自分の弾いている音を聴かず指を動かすことに集中してしまうと、フレーズが切れたり、フレーズの途中の音が不自然な大きさになったりと、曲のなめらかさが失われてしまうことも起こり得る。指よせや指広げで対応すると、フレーズが繋がりやすく、弾きながら自分の音を聴く余裕も生まれるであろう。しかし、ピアノ初心者でまだ指の力が弱い場合や脱力が伴っていない場合、指を広げて弾いた音の次の音がさらに跳躍していると、その音まで指を上手く運べず、旋律の音違いにつながる恐れもある。《うみ》では、5小節目から6小節目にかけてのG→E（短3度）を3→2で弾くが、次の音がE→A（完全4度）で跳躍している。4度を2→5で弾くため指のポジションは変わらないが、厳密に言えばE音を2の指で弾いた後、5の指を寄せる動作が必要となることから、2→5で弾くための的確な指導が求められる。

《茶つみ》では、譜例14の8小節目から9小節目のようにA→H（長2度）を2→4で弾くた

め指よせが必要となるが、2011年の楽譜は2→5での指よせとなっているため、負担は減っている。しかし、隣り合ったA→Hを2→3で弾き、9小節目の4拍目から10小節目の1拍目G→Eを1→3の指越えで弾く方が難易度は低いのではないだろうか。

譜例 14 茶つみ



《春の小川》では、A→A→G→Eと進行する旋律が3回出てくる。1回目と2回目の指づかいは3→5→4→2となっており、A→Aで指替えが必要である。しかし3回目は3→4→3→2となっており、A→Aの指替えとG→E（短3度）で3→2の指広げとなり、指替えの後すぐに指広げで対応する必要がある。2回目と3回目の次の小節はD→E→Cとなり同じ旋律の進行となるので、3回とも同じ3→5→4→2の指づかいとし、あえて3回目で指広げを用いなくても問題はないと考える。

(2) 4・5の指の使用の増加

指よせ・指広げが増えたことにより、4・5の指の使用が増えたことにも注意を払う必要がある。指替え・指越え・指くぐりの使用は2020年の楽譜より2011年の楽譜の方が多かったが、4・5の指を回避し、1・2・3の指を多く使うために、指替え・指越え・指くぐりが使用されていた側面もあった。4・5の指の使用が増えたのは、指替え・指越え・指くぐりを回避するためで、その代わりとして指よせ・指広げが増えたのではないだろうか。つまり2011年の傾向とは相反する考え方で指づかいを改訂したとも考えられる。

《かくれんぼ》のタツカのリズムを弾く際、4の指の連続や5の指の連続で対応する必要がある。タツカは8分音符と16分音符が組み合わされたリズムで、軽やかに弾んで弾く必要がある。ピアノ初心者は、4や5の指を立てて弾

くことが難しい。脱力も伴わない場合は、明確なタツカのリズムを捉えきれず、この曲の特徴を生かした演奏が難しくなる。曲想を考えて、活発な様子を表現できるような指導が求められる。場合によっては、指越えなどの難しい指づかいになったとしても、リズムを明確に弾ける指の使用を提案することも必要となるであろう。

《おぼろ月夜》は、1小節目から2小節目のG→Gや、5小節目から6小節目のC→Cを5→4に指替えをする必要がある(譜例13)。2011年の楽譜では、すぐ前の旋律となる1小節目C→D→E→Gや5小節目E→F→G→Cが1→2→1→3となっており、1小節目D→Eや5小節目F→Gを2→1で弾く指くぐりを用いることで、G→GやC→Cの同音連打は、いずれも3の指で弾くことができた。弱い指でありコントロールをすることが難しい4・5の指で「なめらかに」指替えをすることは、ピアノ初心者にとっては難易度が高い技術となる場合もある。指を替える際に不自然に強弱がついていないか、なめらかに弾けているかなど、自分の弾いている音をよく聴き、《おぼろ月夜》の穏やかな曲想を表現できるような指導も必要となる。

(3) 同音を弾く際

連続しない同音を弾く際に、指づかいが異なることが困難の原因となる場合がある。

譜例 15 もみじ



譜例 15 《もみじ》の2小節目から3小節目、旋律はF→C→Fと動くが、指づかいは3→1→2となっている。フレーズ全体を繋げて、なめらかに演奏するための指づかいとなっているが、次に続くEの音は、再度1の指を使う。1の指の動きだけに注目すると、厳密には2の指で弾くFを起点として、CとEをどちらも1の指で弾く必要があり、難易度が高い箇所となる可能性もある。2011年の楽譜は3→1→3とな

っており、ポジションはそのままの状態でも自然にF→Eを3→2で弾くことができる。これは、前述した《うみ》でも見られる。H→A→G→E→A→G→Eを5→4→3→2→5→4→2とすると、Aの音が1回目と2回目で異なる指になる。指広げが苦にならないのであれば、5→4→3→2→4→3→2とすれば、Aの音は1回目も2回目も4の指で弾くことができる。続くG→Eについても2回とも3→2で弾くことができ、混乱が少ない。2020年の楽譜には、このAについて指づかいが記載されていない。取り組む側が演奏しやすく、かつフレーズが切れないような指づかいを考える必要がある。

テンポが速くなると、なるべく混乱が少なく簡潔な指づかいの方が、演奏はしやすくなる。《もみじ》や《うみ》のように、同じフレーズ内に同じ音が何度か出てくる場合は、ポジションを変えずに同じ音は同じ指で弾くという提案も、場合によっては必要になると考える。

以上の3点が、2011年と2020年の楽譜を比べ、分析したことで見えてきた課題と考えた。

他には、歌唱旋律を弾く場合の問題点で《スキーの歌》の簡易伴奏譜におけるコード部分の旋律の消滅が挙げられる。2011年の簡易伴奏譜には、三和音での表記があり、和音の内声部にある主旋律を際立たせて弾く難しさはあるものの、主旋律の音分かる楽譜であった。2020年の簡易伴奏譜は、主旋律が省略され、高音部が際立つ表記となっている。教科書「小学生の音楽5」(教育芸術社)と「小学音楽 音楽のおくりもの5」(教育出版)でも、主旋律はD→G→A→H→A→Gと表記されているため、主旋律の補足説明を加えながら指導を行う必要がある。

また、2020年の簡易伴奏譜では、2011年に比べ《さくらさくら》《こいのぼり》のように、前奏の最後の小節、つまり歌に入るすぐ前の小節の音が簡略化されている曲もあった。これは伴奏の負担が減り、子どもたちと一緒に歌う場合に歌に入る合図を出しやすくなる可能性が考えられる。難しい前奏を弾くことに気を取られ、子どもたちの歌の始まりの指示が曖昧になってしまうことは、回避すべきことである。教育現

場において、子どもたちの音楽の流れを阻害しないという面で有用な変更点である。

最後に、歌唱共通教材を弾くために必要な指づかいの指導について考えたい。本学における弾き歌いの授業は2回生で受講できるが、ピアノ初心者学生は1回生で「バイエルピアノ教則本」(以下バイエル)を使用してピアノの基礎を学ぶ。バイエルは、50番まで右手はすべて隣り合う五つの音のみで書かれている。バイエルを用いて音符の読み方・長さなどを学びながらピアノの基礎となる技術をつけるべく授業を進めているが、歌唱共通教材のピアノ伴奏や弾き歌いの際に必要な指越え・指くぐり・指替え・指広げ・指よせの五つの指づかいの技術がしっかりと身につかないまま1回生のピアノの授業を終えてしまう学生もいる。隣り合う五つの音のみの曲に慣れてしまうと、歌唱共通教材のように音域の広い曲を弾こうとすると、指づかいが分からなくなる場合も多い。

表4 バイエルに含まれている指づかい

指広げ	51, 57, 59, 66, 69, 71, 72, 73, 74, 76, 77, 78, 82, 83, 85, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 96, 98, 100, 101, 102, 103, 105, 106番
指よせ	51, 76, 78, 81, 93, 98, 100, 101, 102, 104, 106番
指越え	65, 73, 74, 75, 76, 78, 79, 81, 82, 83, 88, 91, 93, 94, 99, 100, 101, 102, 103, 104, 106番
指くぐり	65, 72, 73, 74, 76, 79, 80, 81, 82, 83, 88, 91, 93, 94, 96, 99, 101, 102, 103, 104, 105, 106番
指替え	59, 64, 72, 73, 74, 76, 78, 80, 81, 82, 88, 90, 92, 93, 95, 98, 99, 100, 101, 102, 104, 105, 106番

表4は、バイエル51番以降で右手の旋律に五つの指づかいの技術が含まれている曲についてまとめたものである。とくに、76、93、101、102、106番は、五つの技術をすべて網羅してい

る。また、73、74、81、82、88、99、104番はすべて指越え・指くぐり・指替えが含まれている。バイエルにおいて、なるべく指越え・指くぐり・指替えに触れ、難易度が高い指づかいの技術を習得することができるような課題の出し方を考えるなど、音域の広い曲にも苦手意識を抱かずに取り組めるように工夫する必要がある。

ピアノ初心者学生は、まだ指の力も弱く、思うように指を動かせずに、もどかしい思いを抱えながらピアノの練習をしていることも多い。音を読むことや、指や鍵盤を見て弾くことに一生懸命になってしまい、指づかいの指定があったとしても、指づかいまで確認しながら演奏をする余裕がない場合もある。なめらかにフレーズを繋げるためであるなど、指づかいの表示には必ず理由があることや、具体的な弾き方を丁寧に説明する必要がある。なるべく簡潔な指づかいを提案し、その曲の特徴を生かした表現を考えられるような指導が求められる。

教育現場では、歌を歌うことで得られる楽しさや喜びを教師と児童が共有できることが大切である。歌唱共通教材のピアノ伴奏や弾き歌いの技能は、授業をスムーズに展開させ、子どもたちの音程やリズムを揃えて合唱させるために必要である。その上で、それぞれの曲の歌詞や情景から曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いを持たせるような働きかけをしなければならない。そのために、弾き歌いの技術だけに捉われるのではなく、音楽を形づくっている旋律の音程、強弱、テンポ、リズム、拍、フレーズなど、音楽理論の側面からの知識をつけることも大切である。教師がこのような要素をしっかりと理解し、働きかけることで、子どもたち自身が表現に対する思いを持つということにつながるであろう。より豊かな音楽表現のためには、音楽の授業に必要な基礎的な音楽理論の知識を切り離して考えずに、曲の中でも関連させながら弾き歌いに取り組むことが必要であると考えている。

6. おわりに

今回分析をした歌唱共通教材の歌唱旋律の指

づかいは、2011年の楽譜と比較すると、2020年の楽譜は全体に簡略化され、演奏する側の負担は減ったことがわかった。しかし、すべての学生にとって弾きやすい指づかいはなくなったというわけではなく、個人差があることは十分に考えられる。手の大きさや指の長さなどは一人ひとり異なり、指広げや指よせのような指の収縮・拡張を伴う指づかいは、大きな手の方が有利に働く場合もある。手首が下がりやすい癖があれば指くぐりが不自然になってしまう、手首や肘に力が入りすぎていると指広げや指よせがスムーズにできないなど、得意な指づかい、不得意な指づかいは個人差が出てくるであろう。同じ曲を演奏しても、個々の学生によってつまずきとなる指づかいは異なり、困難な箇所が違ってくことを理解した上で指導をしていくことが求められる。ピアノを弾く正しい手の形で演奏に取り組むことは、前提として必ず求められることであるが、可能な限り、学生一人ひとりが弾きやすく負担の少ない指づかいを提案し、少しでも弾き歌いに対する苦手意識をなくし、音楽的な表現まで考えられるような指導を目指したい。

今回は右手の旋律の指づかいはについて取り上げたが、教育現場では左手の和音も付けて、両手で鍵盤楽器を演奏しながら歌唱することが求められる。本学では、コード奏を取り入れており、和音が変化する箇所では指づかいは複雑にならずに、左手の和音伴奏を付けてもスムーズに曲が進むような指づかいはを考えていく必要がある。より豊かな音楽表現のためにも、指づかいはのさらなる検討は重要な意味を持つと考えている。今後も、学生がつまずきを克服し、生き生きと弾き歌いに取り組めるよう、検討を重ねていきたい。

参考文献

文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』東洋館出版社
 初等科音楽教育研究会編（2020）『改訂版 最新初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』音楽之友社

初等科音楽教育研究会編（2011）『最新 初等科音楽教育法〔改訂版〕小学校教員養成課程用』音楽之友社
 笹野恵理子編著（2018）『初等音楽科教育』ミネルヴァ書房
 新実徳英他（2020）『小学音楽 音楽のおくりもの5』教育出版
 小原光一他（2020）『小学生の音楽 5』教育芸術社全音楽譜出版社出版部編『全訳バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社
 平井李枝（2016）「教員養成課程学生に対するピアノ『弾き歌い』指導法の研究」『宇都宮大学教育学部教育実践紀要』第2号，pp.91-98
 村木洋子（2013）「歌唱共通教材（小学音楽）旋律の運指についてーピアノ入門者のためのー」『山梨県立大学人間福祉学部紀要』第8巻，pp.49-56
 井上ヒロミ，中山侑紀，錦かよ子（2013）「教員養成校におけるピアノ初心者を対象とした実践的支援2ー小学校『歌唱共通教材』の指使いについて」『皇學館大学教育学部研究報告集』第5号，pp.83-114
 森 正（2018）「小学校の歌唱教材におけるピアノ伴奏の指づかいはに関する考察」『鳴門教育大学研究紀要』第33巻，pp.394-409
 高崎展好（2020）「保育者養成におけるグループレッスン指導のための ピアノ弾き歌い教材開発ー授業実践結果から見る開発教材の有効性ー」『環太平洋大学研究紀要』第16号，pp.7-16
 丹羽裕紀子（2021）「保育士養成校における弾き歌い段階的伴奏法（バイエル教則本の利点を用いた練習）」『教材学研究』第32巻，pp.43-52
 武藤純子，大西ゆみ，喜多ちえ，幸野紀子，堀崎峰子，由井敦子，坂井康子（2019）「弾き歌いの指導における簡易伴奏の研究：アンケート調査に基づく簡易伴奏スタイルの分析」『甲南女子大学研究紀要I』第55号，pp.107-118
 伊藤憲孝（2018）「小学校音楽科教育における歌唱共通教材ピアノ伴奏の活用についてー初級学生のピアノ実技指導に着目してー」『福祉健康科学研究』第13巻第1号，pp.10-20